避難をするときには
ブレーカーをＯＦＦに

「停電復旧後には、通電火災の危険があります」

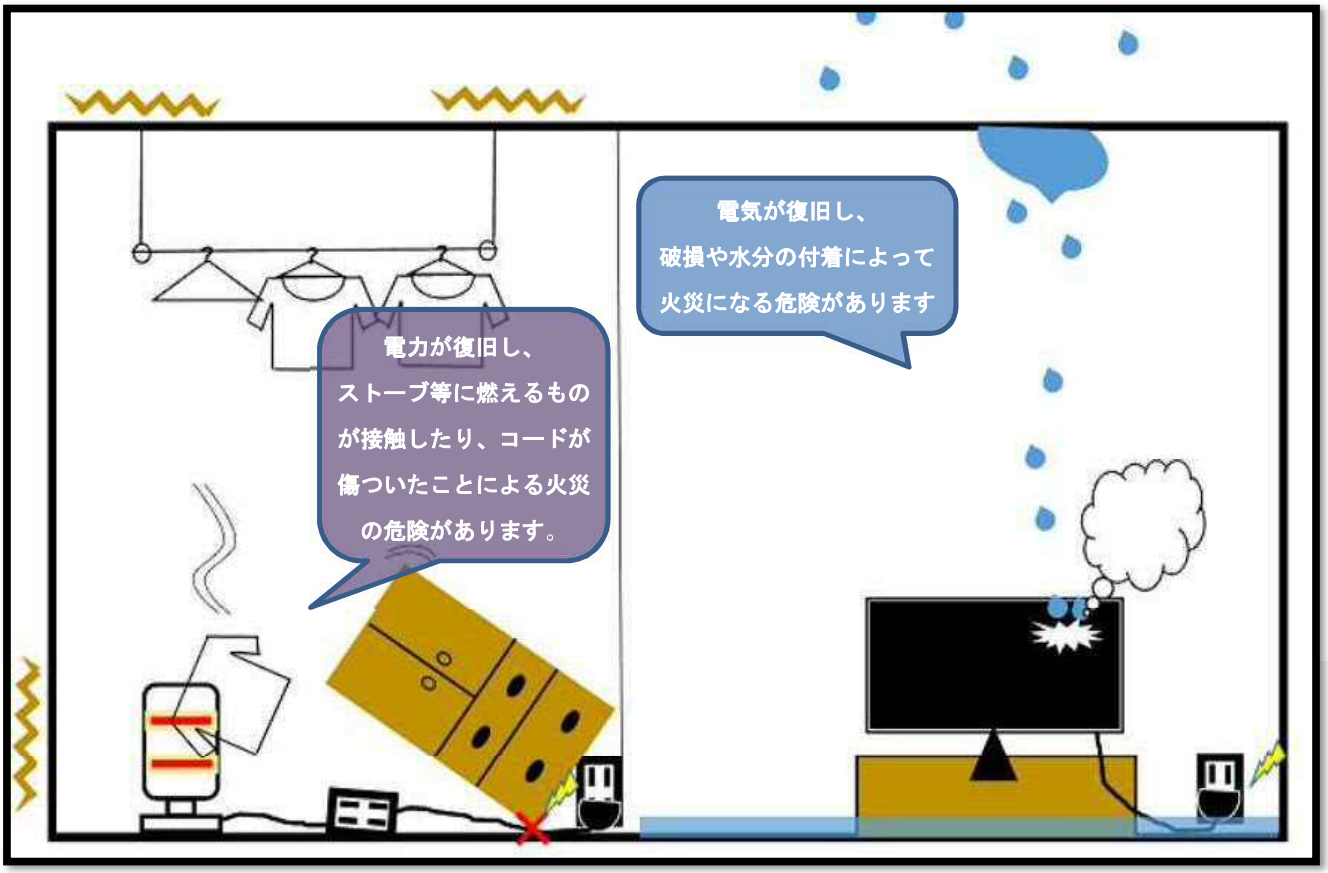
通電火災とは、**地震**や**台風等**の大規模な自然災害の発生に伴い停電し、その後、電力が復旧、通電した際に発生する火災のことです。

災害からの教訓

①令和４年９月に発生した台風１４号で、通電火災が複数発生

②東日本大震災の本震による火災で、原因が特定されたもののうち約６割は電気関係による出火

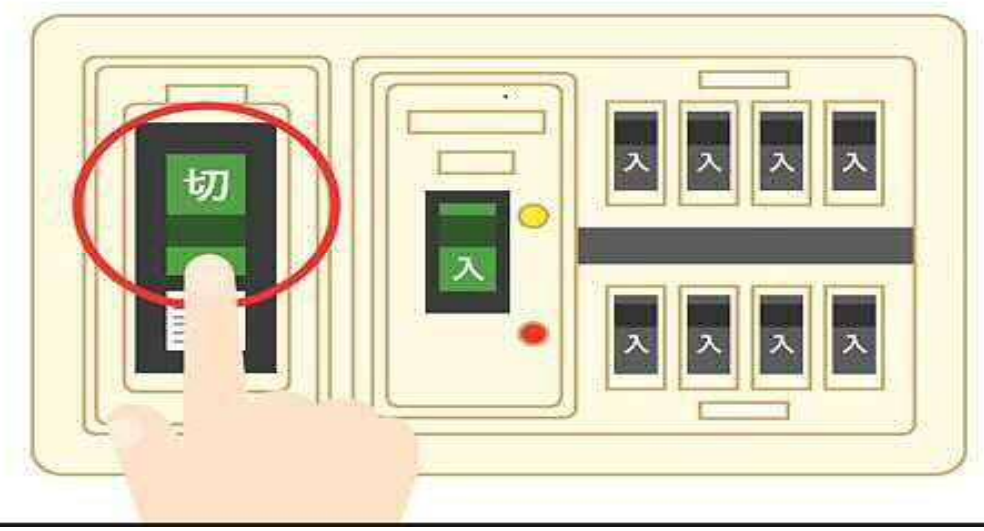
避難等の不在時に停電が復旧し、通電火災が発生した場合には、**発見が遅れて**しまい、**火災が延焼拡大**してしまう可能性があります。



「通電火災を防ぐには・・・」

1　通電火災を防ぐためには、**災害時に家を離れる前に、分電盤のメインブレーカーを「切」にしてください。**メインブレーカーを「切」にしておくと、復旧時に分電盤から各電気器具へ通電されることはありません。

　ただし、メインブレーカーを「入」のまま家を離れてしまった場合は、建物の倒壊危険もありますので、すぐに家に戻るのではなく、**安全が確保されたのちに、メインブレーカーを「切」にするようにしてください。**



2　復旧後は、すぐにメインブレーカーを「入」にするのではなく、**電気器具の安全を確認したのちに「メインブレーカーを「入」にするようにしてください。**また、**メインブレーカーを「入」にしたら、しばらく家を離れず**、煙が出たり、何かが焦げた臭いがした際には、すぐにメインブレーカーを「切」にして電気器具等の使用は避けてください。

3　住宅密集地において、一度通電火災が発生してしまうと多くの住宅が火災の被害にあってしまう可能性があります。

　災害時には近隣住民の方々と協力し、ブレーカーを確認しあうことも大切です。

「感震ブレーカーについて」

　感震ブレーカーとは、あらかじめ設定された震度に達すると地震の揺れを感知して、自動的にブレーカーを「切」にするものです。

　大規模な震災時は、まず身の安全が最も重要であり、避難行動が最優先となるため、必ずしもブレーカーを「切」にできるとは限りません。

　感震ブレーカーを設置することは、震災時の通電火災を予防する有効な手段となります。